

## 三澤雄太 先生 (NPO 法人「あき活 Lab」 理事長)

### ■プロフィール

大館市出身。2019 年に富士通を退職し、大館市地域おこし協力隊として U ターン。

ふるさとの空き家問題に危機感を抱き、2021 年に NPO 法人「あき活 Lab」を設立した。

大館市では空き家相談会や空き家対策セミナーの企画・運営を担当するほか、現在は県や県内自治体の事業も受託。行政・専門職・地域住民と連携しながら、地域の空き家を“次の担い手へつなぐ”取り組みを進めている。

ウィンタースポーツではカーリングが大好きで、富士通時代には実業団対抗大会にスキップとして出場した経験を持つ。



空き家相談会の様子

## 越後康一 先生 (NPO 法人「eナビステーションりあん」 理事長)



白神山地にて

### ■プロフィール

・某大手木造住宅メーカーを早期退職し、単身で能代へ U ターン  
・NPO 法人「eナビステーションりあん」を設立

・受託事業(能代市より)

1 旧市民プラザ運営事業(令和7年3月で事業終了)

2 移住定住促進事業(継続中)

・自主事業

1 空き家相談 2 身元保証相談

・令和7年2月～秋田県から「居住支援法人」の指定を受ける

・令和7年4月～「居住支援法人」として支援業務を開始

## 大川 舞 先生 (NPO 法人「あき活 Lab」 理事)

### ■プロフィール

大館市出身。ハウスメーカー、不動産屋、司法書士・行政書士事務所勤務を経て、大館市地域おこし協力隊として U ターン。

空き家を活用した地域の茶の間「としよ木漏れ日」をオープンし、「住み開き」や「民泊運営」など、空き家の活用を実践。

2021 年からは、古道具屋「空-kuu antiques-」を開業し、各地のイベントに出店している。



地域の茶の間「としよ木漏れ日」

## \* 今回講演会「官民連携で取り組む空き家対策」で伝えたいこと

- 1 空き家問題は「持ち主の個別課題」ではなく、地域全体の暮らしに直結する社会課題であること。
- 2 官民連携が不可欠であり、あき活 Lab は行政・専門職・地域住民の“つなぎ役”として機能していること。
- 3 空き家は適切に支援すれば“地域資源”になり、地域の居住環境やにぎわいに貢献すること。
- 4 現場で起きている相談内容(相続・税・売却・賃貸・管理など)は複雑化しており、ワンストップの支援体制が求められていること。
- 5 あき活 Lab の実践(相談会・空き家バンク運営支援・サポーター養成等)は、地域課題の解決に具体的に役立っていること。
- 6 “居住支援”は福祉だけではなく、不動産・行政・地域が協働して初めて機能すること。
- 7 空き家は「住まいに困っている人の住まい確保」にもつながり、地域福祉の課題解決の入口にもなりうること。
- 8 「不動産の視点」から支援することで、困窮者・高齢者・単身者でも入居しやすい環境づくりが可能になること。
- 9 能代市でも“空き家×居住支援”の連携が進めば、持続可能な暮らしの循環をつくれること。
- 10 市民・行政・地域団体がそれぞれできる一歩を持ち帰り、地域全体で支え合う動きが広がることを期待していること。